

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	特別医療法人 明生会 すろー・らいふ台町 1階	評価実施年月日	平成21年7月30日
評価実施構成員氏名	藤盛洋平・塩浦家久・岩森充英		
記録者氏名	岩森充英	記録年月日	平成21年8月3日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>5つの運営理念を掲げている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>休憩室などに目にできるようにして、理念の共有を図っている。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>「ゆうゆう」という広報誌を2ヶ月に1回発行し、町内会、家族へ配布し、活動を理解して頂けるよう取り組んでいる。 ○ボランティアの導入を図り、外部との交流を進めている。又、家族会で勉強会を開催し、家族にも理解を促している。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>平成20年度より7月すろーらいふ主催でお祭りを開催し、地域の方にも来所して楽しんでいただけるようにしています。</p>	○	<p>多くの方が気軽に立ち寄れる工夫がしたい。回数をもっと増やしたい。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に加入、町内ゴミ拾いなどに入居者と共に参加している。外出や、散歩時は挨拶会話など交流している。 町内会に有る託老所「オピッタの家」と交流を図っている。地域でのお祭りや行事にも参加している。</p>		
<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>組織内で運営推進委員会を設立し、すろーらいふが地域に還元出来る事を、運営推進会議にて検討している。</p>	○	<p>介護教室や、認知症講習会など</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>7 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>前回、評価の改善項目を検討し、改善へ向けて取り組みをおこなった。</p>		
<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>8 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議にて、緊急避難時の町内協力を検討している。</p>	○	<p>回を重ね、会議の中で様々な事柄を報告、意見交換できるようにする。</p>
<p>○市町村との連携</p> <p>9 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>報告、相談など窓口に行き、行なっている。また、キャラバンメイト養成などの取り組みに関して市と連携を取り進めている。</p>		
<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>10 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>管理者は、市内研修会で学んでいるが、職員が学ぶ機会を設けていない。</p>	○	<p>内部研修を実施する。学習会の回数を増やしたい。</p>
<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>11 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>外部研修の報告を兼ね、内部研修にて職員に周知している</p>		
4. 理念を実践するための体制			
<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>12 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に内容を説明し、理解、納得していただいた上で捺印を頂いている。また、契約時に不安に思う事や疑問など話し合う事になっている。その他随時、不安・疑問などの声があれば対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情や不満が出た場合、迅速に管理者、職員と検討し、改善、解決出来るように努めている</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>ご家族が来られた時は、必ず、日頃の様子や受診、金銭など様々な事を伝えている。なかなか、来られないご家族には、電話にて、連絡、報告、相談を行なっている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情窓口を設置し迅速に対応できる体制をとっている。家族会より出た意見を参考に取組んでいる。</p>		<p>家族会での意見としてボランティアの介入があり、介入体制を整えた。</p>
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月1回の定期会議にて提案があれば検討、実施している。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>受診や、外出などの状況に合わせた、勤務調整を行なっている</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>ケアの質を高める為、必要最小限度の職員の異動を4月に行った。入居者へのダメージを最小限に抑える為、異動した職員は関わりを中心におこない。利用者との距離を縮める事に努めた。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	学習委員会が内部研修を企画し、実施している。	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	市内グループホーム部会というものが、情報交換や、合同学習会を実施している。	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	健康推進活動として、法人全職員対象に、年2回体を動かす機会がある。	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	能力給制度を導入しており、個別的に年間目標を立案し評価している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	計画作成担当者や職員を中心に、早く慣れて安心した生活が出来るように取り組んでいます。また、記録に残し他職員含め関わる全員が情報を共有できるようにしている。センター方式シートを活用し、情報収集している。暮らしのアセスメントシートを作成し、担当者を決めアセスメントを半年に1回行い評価している。	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	家族が来られた時に、お話しする姿勢を持ち、聞いている。また、家族会にて発言できる場所や時間を設けている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	計画作成担当者は相談時、訴えている内容を整理し、必要なサービスを家族と一緒に考え支援している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人のペースに合わせてながら、ゆっくりと必要な事を徐々に出来るよう進めている。ご家族にも協力して頂き、ご本人が安心して出来るよう関わっています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	支え合う関係を築けるよう、毎日のふれあいや気付きを大事し、お互い様の関係で過ごしている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族も一緒に支える協力者として、サービスの説明をおこない、ご本人と関わる時間を設けている。職員と共に楽しみながら支え合えるよう努めている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	職員は、ご家族との会話を大切に、個別的な支援の方法を時間をかけてお話ししている。認知症の進行など困惑しないよう、適時に説明し、受け止めて頂けるよう努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居時、昔の事柄もセンター方式シートを活用し、リサーチしている。途切れないように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士が自ら関れる場合は、見守り、難しい場合は、職員が仲介し関わりあえるよう支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	終了したらそれで終わりではなく、これまでの関係を大切にし係わり合いを持てるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式、ICFなどを活用し、把握に努めている。毎月会議にてケアカンファレンスを実施し情報の共有を図っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式、ICFなどを活用し、把握に努めている。毎月会議にてケアカンファレンスを実施し情報の共有を図っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	継続した情報収集、細かな観察をおこない、ひとりひとりの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアプラン作成時、職員、ご本人、ご家族と話し合いながら、作成している。毎月のケースカンファレンスや日常の中で随時話し合いを設けケアについての対応を決めている。ケアプラン作成時にそれらの内容を盛り込んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	担当職員が日々の状態をアセスメントしそれをケアプランに繋げている。入退院や認知症の進行状態に合わせ、適時にケアプランの見直し、作成を行っており、その際はご本人、ご家族ともしっかり話し合っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録は、SOAP方式を活用し、職員が共有し、かつ分かりやすく記載できるようにおこなっている。アセスメント時には記録を確認しプランにも反映している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族と相談の上、受診の支援などは対応支援できている。	○	入院などによる、空室を利用したショートステイの実施。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	企画委員会を立上げ、慰問ボランティアの受け入れ態勢や、台町地区のボランティア団体と協働し個別ボランティアの受け入れ態勢を構築中。	○	運営推進会議で話し合い整理する。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	ケアマネジャー連絡協議会やグループホーム部会の中で意見交換などは出来ている、参考になる事柄はホーム内で出来ているかなど検討している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に参加して頂き、ホームの取り組みを一緒に考えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	契約している訪問看護事業所と連携し、医療関係との連絡調整を実施している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医や認知症専門医へかかり適切な診断、治療が受けられるようにしている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	契約している訪問看護事業所と連携し、週1回の定期訪問や相談のフォローを受けている。体調変化時は速やかに相談し支持を仰ぎ対応している。定期訪問の他に、経管栄養の入居者が生活している為1日2回の訪問を受けている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時に、認知症がある為、リロケーションダメージに留意していただく事を病院側へ伝え早期退院が出来るようにしている。また、日々の様子やポイントを細かく伝え安心して入院時も過ごせるようにしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末についての話し合いを家族、計画作成担当者、かかりつけ医を含め一丸となり対応している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	随時相談しながら、かかりつけ医を含めチーム一丸となり対応できた。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>関係者に添書を作成し必要な情報を伝えている。ご家族や関係者と何度も話し合い、最小限のダメージで済むように配慮している。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>法人全体の取り組みとして、個人情報保護に努めている。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>自己決定権をつねに利用者にとってもらいながら、生活支援している。困っていれば支援し極力入居者本人の意思が出るようにしている。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>その人らしく生活できるよう工夫している。過ごしたい場所、時間、相手など。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人が行っていた所へ行けるよう支援している。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>買い物、調理、片付けなど出来る方と職員が行なっている。昔の事を思い出しながらされている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の好み、家族の意向、健康状態を把握した上で、適時に楽しめるよう取り組んでいる。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりのパターンを把握し、声掛け誘導や夜間ポータブルトイレの使用などを実施している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるよう支援している。	希望で入浴が極力出来るようおこなっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	体調、気分に留意し、生活のリズムに沿って、睡眠、休息できている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	出来る事、出来ない事を割り出し、出来る事をお手伝いし自信を持って生活できるよう支援している。	○	訴える事が難しい方には、表情や言動からニーズに合っているかを見極め、さらに多角的に楽しみ、気晴らしを提案していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるよう支援している。	状態に合わせ、買い物や受診のときの支払いを自分で行なえるようお手伝いしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は近所に散歩や買い物など外に出る機会をつくっている。また、一人で散歩に出掛ける場合は、少し距離をとり、後方から危険が無いよう見守り行なっている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年に数回ご家族も誘い外出している。また、買い物時のドライブなど、各個人の体力や状態に合わせた外出の機会を増やしている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望される方には、電話を掛けるなどのお手伝いをしている。		知人などの手紙が来た場合は、返事を書くお手伝いをしている。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族、知人など自由にお越し頂いている。	○	職員の対応など、来所したくなる雰囲気づくりをおこなう。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束が必要な方は、家族説明を実施し、同意書を交わしている。毎月評価している。拘束に関する委員会があり活動している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中玄関に施錠を掛けていない。夜間は22:00から6:00まで施錠している。基本居室は施錠していないが、ご本人自ら「誰か入られては困る」との事で鍵を掛けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>昼夜共に適的に巡回し安全を確認している。</p>		
<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>刃物については管理配慮しているが、ある程度自分で管理できるのであれば、お任せしています。</p>		
<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>危険性やリスクなど日頃の業務や会議の中で話し合いながら取り組んでいる。発生時は報告書にて是正予防を立て、評価している。</p>		
<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>職員全員が救急救命講習を定期的受講している。</p>		
<p>○災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>運営推進会議にて町内会協力体制を検討中</p>		
<p>○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>考えられるリスク、今後の予測については家族の方へ話す機会がある時にお伝えしている。また、なるべく今の生活スタイルを崩すことなく生活できるよう、どうすべきかもお話ししている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p> <p>体調変化、異変に気づいた場合は、ご家族に連絡し、状況説明をおこない。程度によって、契約している訪問看護事業所に支持を仰いでいる。体調の様子などを記録し、他職員との情報共有に務めている。</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p> <p>処方箋を熟読し、処方が変わったときなど、体調変化等に特に留意するよう務めている。また、服薬の状況をシートでチェックし誤薬、飲み忘れが無いように努めている。</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけに取り組んでいる。</p> <p>水分量や食物繊維の多い食品が取れるよう工夫したり、毎日体を動かすように、体操を実施している。また、医師や訪問看護師に適時相談し、下剤の調整を行なっている。</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p> <p>各個人の能力にあわせ、声掛けや介助にて、口腔内の清潔が保持できるよう努めている。</p>		
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p> <p>食事量、水分量を記録し、一人ひとりの摂取状況を把握している。食が進まない方は好むものを進めている。また医師と相談し経口栄養剤を処方してもらうなどの工夫をしている。</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。</p> <p>感染症の予防、対応に取り組んでいる。感染対策委員会にて管理している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	職員は食品衛生責任者講習を受講しており、食中毒防止に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	玄関先に木で作った看板を設置している。気軽に座ってもらえるように、ベンチの設置など浸し身をもって貰えるような工夫をしている。また、非常時の為に、なるべく玄関前に駐車しないよう努めている。		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	調光、家具の配置を工夫し、利用者、家族に気持ちよく使っていただける工夫をしている。又、季節に応じた切り花など置くよう心がけている。		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	椅子の形態を各入居者さんに合わせ、一人用、二人用など工夫している。居たい所に居て過ごせる工夫をしている。		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	自宅で使用していた物や家具を居室に入れてもらうよう家族に話し、設置している。写真などを飾りいごちの良い居室作りの工夫をしている。		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のとよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	定期的に空気の入替えをおこなっている。温湿度調整にも気を配り、冬は加湿器をセットし工夫している。温湿度計を設置しており、暑すぎるようであれば、本人のストレスにならない範囲で適時換気、温度調整している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>85 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。</p>	<p>バリアフリー構造。居室内も一人ひとりの方に合わせた、安全に配慮している。</p>		
<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>86 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>あきらめない姿勢で、わかる力を生かす対応をしている。混乱した場合も、最小限にとどめる関わりを行なっている。</p>		
<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>87 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>テラス、玄関先のベンチを利用し、日光浴などを行なっている。また、畑に野菜、花を植え利用者と共に草取りや収穫を行なう取り組みをしている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	③
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	②
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	③
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	③
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない	②

V. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	③
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	②
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	③
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	③
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	②

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) :担当職員がアセスメントシケアの内容をユニット職員と打ち出し、ケアプランにつなげる取り組みを始めました。細かな変化や実際取り組む方法が明確になり、ケアの充実化が図れると考えています。センター方式を工夫したアセスメントシートでご家族にも日々の様子を伝えるツールとして活用していきます。